

## 鎌倉市市民活動センターの在り方（案）概要

## 1 これまでの検討の経過

- (1) 推進委員会での議論
- (2) アンケート実施
- (3) ワーキング（推進委員・指定管理者）の実施
- (4) (ワークショップの実施(センター支援対象者(潜在的な対象者を含む)と意見交換))

→センターの在り方（仕様書）に反映させていく

## 2 1～3までの議論の内容（概要）

- ✚ 市民活動センターが中間支援をしてほしいという需要があること
- ✚ ソフト機能（相談・交流）の充実が求められていること
- ✚ 施設利用の需要もあること（利用者固定化・会議室利用に偏る傾向あり）
- ✚ 現状のセンターの場だけでは、ニーズをカバーしきれないこと  
（→工夫が必要（e.g. フリースペース、オンライン予約など））
- ✚ 相談を担うコーディネーターの存在が必要で、相応の予算もしくは工夫（委託など）が必要であること
- ✚ 市民活動参加促進、情報提供のためのアウトリーチが重要であること（現場を知る）
- ✚ 協働のコーディネートのためには、行政の仕組みが分かっていること

## 3 センターに求められるもの（＝センターの在り方）

## (1) 相談対応・支援事業の充実

一般的な相談はもちろん、団体の活動を多面的に支援する力が必要

→多面的な支援の方法は？

- ・ オンライン相談対応、補助金申請支援など、相手に合わせた的確な支援

・

・

## (2) 協働コーディネート事業

## ✚ つながる鎌倉エール事業

- ・ 受付、書類作成支援（思いの企画書への落とし込みを含む）
- ・ 団体と行政の通訳
- ・ 伴走支援

✚ 目的達成のための手段として協働を実施するためのコーディネート

→コーディネートを担う人材の人物像は？

- ・ 行政側の仕組みを熟知していること

- ・
- ・
- ・
- ・

(3) 情報収集・活用・発信事業の充実

充実した相談対応となるためには、そのための情報の収集・分析・活用が必要

特に現場を知ること、アウトリーチを行うことで、市民活動参加促進を図る

(4) 交流事業

団体-団体、団体-地域など、多様な主体が交流し、ネットワーク化の促進を図る

(5) 施設管理

現状維持をしつつも、予約方法のオンライン化や、現スペースの使い方の見直し等の工夫